

第3回日露学生フォーラム 参加報告書

20116008 稲富 雄大

名称 3rd Japan-Russia Student Forum(第3回日露学生フォーラム)

参加形式 Zoom によるオンライン学会、グループワーク形式

参加日時 2021年9月12日(日) 15-19時(+JST)

*フォーラム日程は9月12日及び13日

研修内容

日本時間15時、モスクワ標準時9時からZoomで開催された。開始時刻に合わせて徐々に参加者がログインしてきたが、顔や声が分からないままであり、独特な緊張感があった。Zoomの最終調整の段階では母国語が飛び交っていた所から一転、始まるや否やすべて英語でスムーズに進行し、いよいよ始まったと実感し更に緊張した。

メインセッションでは、専門分野を問わず全参加者が集まり、日本とロシアの文化や生活様式について聴講した。学会形式でのスライド発表ではあったが、お互いの国の料理や楽器の紹介など、どれも非常に親みやすい内容で、聞き入っているうちに緊張がほぐれた。

18時頃にメインセッションが終了し、続いてグループに分かれての活動に移った。医学、自然科学、社会科学、人文科学の4分野が設けられており、私は医学分野に参加した。各分野でさらにグループが分かれており、医学分野では「コロナ禍での医学生の教育」「コロナ感染拡大に伴う医療制度への影響」「コロナ禍での国際交流」「ワクチン接種と公衆衛生の現状」の4つの議題に対しグループ分けがされた。私は日露間での医学教育の違いについて話し合いをした。日本では4年生までがオンライン、5,6年生が対面実習を主としている一方で、ロシアでの対面・オンラインの比率は予防接種率や感染率に大きく左右され、実習生も例外でないという。私はここ数年英語を話す機会がなく、今回のフォーラムにおいて自分の思いを言葉にして発信することに難儀したが、他の班員から私に積極的に話を振ってもらい、しっかりと耳を傾けてもらえたおかげで、片言の英語でも自信をもって参加できた。

時間内にスライドがまとまらなかったが、SNSを通して作成を進めることができ、同時にフォーラム終了後にも繋がる手段をもつことができた。実習のため私は2日目に参加できなかったが、スライド発表の成功を喜ぶメンバーのSNS投稿が届き、安堵した。